

## 6.10 何事も縁である

百島 則幸

一般財団法人 九州環境管理協会 理事長



創立 30 周年、誠におめでとうございます。新しい組織を作ることは大変な仕事で、人と資金があればできるものでもないでしょうし、作ることができたとしても、更に大変なのは、常に新しい目標を立て、それに向かって組織を動かし、成果を上げ、活力を維持していくことだと思います。この 30 年の環境科学技術研究所（環境研）の活動を支えられてきた方々、そして、現在の環境研を支えている方々の労力と努力に敬意を払うとともに、次の 30 年に向けて邁進されることを期待しております。

昔話になることをご容赦願ひ、環境研と私のご縁を書かせて頂くことにします。とは言っても、私は大学に勤務していたので、環境研の調査研究に設けられていた委員会に委員として参加させて頂いたことがご縁であり思い出です。私が環境研のことを最初に知ったのは、「六ヶ所村に核燃料関連施設が設置されることになり、それに合わせて、放射能に関する研究施設が青森県にできる」と聞いたときだと思います。当時、文部科学省科研費核融合特別研究（1981－1990 年）の環境トリチウム研究班で、たくさんの研究者の方々と知り合うことができました。そのなかに旧動燃の片桐裕実氏がいらっしゃいました。そのご縁で、片桐さんが環境研に出向中に「排出放射性物質影響事前調査（H3～H5）」の委員会の委員に加えて頂きました。施設はまだ建設中で委員会はおっぱら東京で開催されていました。時期は覚えていませんが、桜井直行氏にも委員会か何かの折に初めてお会いした気がします。桜井さんは旧動燃から環境研へ移られ、理事兼環境動態研究部長として活躍されました。当時の「放射性物質等分布調査（H6～H17）」の委員会の委員にも加えて頂きました。

初めて六ヶ所村の環境研を訪問したのは、当時、委員会が三沢で開催された機会だったと思います。原野のなかを車で進んでいく道筋、「元の事務所はこの辺で、確か廃校になった小学校か何かだった」と説明がありました。そこには何もなく原野の枯草のなかに建物があった痕跡だけが残っていました。沿革を拝見すると 1993（H5）3 月に事務・研究棟（現 本館）完成とあるので、車窓に雪はなかったことから、完成前の施設の見学に連れて行って頂いたのかも知れません。環境研とのご縁はその後も続くことになり、私が大学を定年退職するまで、いくつかの委員会で委員を務めさせて頂きました。

歳と共に人生を振り返ると、人生は人との縁で作られているとつくづく思います。日本語でコネにはあまりいい響きはないかもしれませんが、コネクションは縁で大切なものです。良縁が良い人生を作り、良い組織を作ることになると思っています。

拙文の最後に、環境科学技術研究所の益々のご発展をお祈り申し上げます。